

談懷追作女廼

石漱目夏

青空文庫

私の処女作——と言えは先^まず『猫』だろうが、別に追懐する程のこともないようだ。ただ偶然ああいうものが出来たので、私はそういう時機に達して居たというまでである。

というのが、もともと私には何をしなければならぬということ
がなかつた。勿^{もちろん}論生きて居るから何かしなければならぬ。する
以上は、自己の存在を確実にし、此^{ここ}処に個人があるということ
他にも知らせねばならぬ位の了^{りようけん}見は、常人と同じ様に持つて
いたかも知れぬ。けれども創作の方面で自己を發揮しようとは、
創作をやる前迄も別段考えていなかつた。

話が自分の経歴見たようなものになるが、丁^{ちようど}度私が大学を出

てから間もなくのこと、或日外山正一氏から一寸来いと言つて来たので、行つて見ると、教師をやつて見てはどうかということである。私は別にやつて見たいともやつて見たくないと思つて居なかつたが、そう言われて見ると、またやつて見る気がないでもない。それで兎に角やつて見ようと思つてそういうと、外山さんは私を嘉納さんのところへやつた。嘉納さんは高等師範の校長である。其処へ行つて先ず話を聴いて見ると、嘉納さんは非常に高いことを言う。教育の事業はどうとか、教育者はどうなければならぬとか、^{とて}迎も我々にはやれそうにもない。今なら話を三分の一に聴いて仕事も三分の一位で済まして置くが、その時分は馬鹿正直だったので、そうは行かなかつた。そこで迎も私には出来

ませんと断ると、嘉納さんが旨い事をいう。あなたの辞退するのを見て益ますます依頼し度たくなつたから、兎に角やれるだけやつてくれとのことであつた。そう言われて見ると、私の性質として又断り切れず、とうとう高等師範に勤めることになつた。それが私のライフのスタートであつた。

茲ここで一寸話が大戻りをするが、私も十五六歳の頃は、漢書や小説などを読んで文学というものを面白く感じ、自分もやつて見ようという気がしたので、それを亡なくなつた兄に話して見ると、兄は文学は職業にやならない、アツコンプリツシメントに過ぎないものだと云つて、寧むしろ私を叱しかつた。然しよく考えて見るに、自分は何か趣味を持った職業に従事して見たい。それと同時にその仕

事が何か世間に必要なものでなければならぬ。何故なぜというのに、困ったことには自分はどうも変物である。当時変物の意義はよく知らなかった。然し変物を以て自ら任じていたと見えて、迎とても一々こちら此方から世の中に度を合せて行くことは出来ない。何か己を曲おのれげずして趣味を持った、世の中に欠くべからざる仕事がありそんなものだ。——と、その時分私の眼に映ったのは、今も駿河台するがだいに病院を持って居る佐々木博士の養父だとかいう、佐々木東洋という人だ。あの人は誰もよく知って居る変人だが、世間はあの人を必要として居る。而もしかあの人は己を曲ぐることなくして立派にやっけて行く。それから井上達也という眼科の医者やはりが矢張駿河台に居たが、その人も丁度ちょうど東洋さんのような変人で、而も世間から

必要とせられて居た。そこで私は自分もどうかあんな風にえらくなつてやつて行きたいものと思つたのである。ところが私は医者きりは嫌いだ。どうか医者でなくて何か好い仕事がありそうなものと考えて日を送つて居るうちに、ふと建築のことに思い当つた。建築ならば衣食住の一つで世の中になくて叶かなわぬのみか、同時に立派な美術である。趣味があると共に必要なものである。で、私はいよいよそれにしようと思つた。

ところが丁度その時分（高等学校）の同級生に、米山保三郎という友人が居た。それこそ真性変物で、常に宇宙がどうの、人生がどうのと、大きなことばかり言つて居る。ある日此男たすが訪ねて来て、例の如く色々哲学者の名前を聞かされた揚句あげくの果はてに君は何

になると尋ねるから、実はこうだと話すと、彼は一も二もな
くそれを却しりぞけてしまった。其時かれは日本でどんなに腕ふるを揮つた
つて、セント・ポールズの大寺院のような建築を天下後世に残す
ことは出来ないじゃないかとか何とか言つて、盛んなる大議論を
吐いた。そしてそれよりもまだ文学の方が生命があると言つた。
元来自分の考は此男の説よりも、ずっと實際的である。食べると
いうことを基点として出立した考である。所が米山の説を聞いて
見ると、何だか空々くうくう漠々ぼくぼくとはしているが、大きい事は大
きいに違まらない。衣食問題などは丸で眼中まるに置いていない。自分は
これに敬服した。そう言われて見ると成なるほど程又そうでもあると、
其晚即席に自説を撤回して、又文学者になる事に一決した。随分

呑気のんきなものである。

然し漢文科や国文科の方はやりたくない。そこで愈いよいよ英文科を志望学科と定めた。

然し其時分の志望は実に茫ぼうぼう漠極ぼくきわまったもので、ただ英語英文に通達して、外国語でえらい文学上の述作をやつて、西洋人を驚かせようという希望を抱いだいていた。所が愈い大学へ這入はいつて三年を過して居るうちに、段々其希望があやしくなつて来て、卒業したときには、是これでも学士かと思ふ様な馬鹿が出来上つた。それでも点数がよかつたので、人は存外信用してくれた。自分も世間はなはへ対しては多少得意であつた。ただ自分が自分に対すると甚はなはだ気の毒であつた。そのうち愚ぐずぐず図々ずぐずしているうちに、この己れに対する

氣の毒が凝結し始めて、てい体のいい レシゲネーション 往 生 となつた。わるく
 云えば立ち腐れを甘んずる様になつた。其そのくせ癖世間へ対しては甚はなは
 だ氣きえんが高い。何の高山の林公など抔と思つていた。

その中、洋行しないかということだったので、自分なんぞより
 ももつとどうかした人があるだろうから、そんな人を遣やつたらよ
 かりうと言つと、まアそんなに言わなくても行つて見たら可いだ
 ろうとのことだったので、そんなら行つて見ても可いと思つて行
 った。然し留学中に段々文学がいやになつた。西洋の詩などのあ
 るものをよむと、全く感じない。それを無理に嬉うれしがるのは、何
 だかありもしないつばさ翅はを生やして飛んでる人のような、金がないの
 にあるような顔して歩いて居る人のような気がしてならなかつた。

所へ池田菊苗君が独乙ドイツから来て、自分の下宿へ留った。池田君は理学者だけれども、話して見ると偉い哲学者であつたには驚いた。大分議論をやつて大分やられた事を今に記憶している。倫敦ロンドンで池田君に逢あつたのは、自分には大變な利益であつた。御蔭おかげで幽霊の様な文学をやめて、もつと組織だつたどつしりした研究をやるうと思ひ始めた。それから其方針で少しやつて、全部の計画は日本でやり上げる積つもりで西洋から歸つて来ると、大学に教えてはどうかということだつたので、そんならそうしようと言つて大学に出ることになつた。(是これも今云つた自分の研究にはならないから、最初は断つたのである。)

さて正岡子規君とは元からの友人であつたので、私が倫敦ロンドンに

居る時、正岡に下宿で閉口した模様を手紙にかいて送ると、正岡はそれを『ホトトギス』に載せた。『ホトトギス』とは元から関係があつたが、それが近因で、私が日本に帰つた時（正岡はもう死んで居た）編輯者へんしゅうしゃの虚子から何か書いて呉れないかと囁ささまれたので、始めて『吾輩は猫である』というのを書いた。所が虚子がそれを読んで、これは不可いませんと云う。訳を聞いて見ると段々ある。今は丸まるで忘れて仕舞しまつたが、兎とに角かもつと尤もだと思つて書き直した。

今度は虚子が大いに賞ほめてそれを『ホトトギス』に載せたが、実はそれ一回きりのつもりだつたのだ。ところが虚子が面白いから続きを書けというので、だんだん書いて居るうちにあんなに長

くなつて了しまつた。というような訳だから、私はただ偶然そんなものを書いたというだけで、別に当時の文壇に対してどうこうという考も何もなかつた。ただ書きたいから書き、作りたいから作つたまでで、つまり言えば、私がああいう時機に達して居たのである。もつとも書き初めた時と、終る時分とは余程考よほどが違つて居た。文体なども人を真ま似るのがいやだつたから、あんな風にやつて見たに過ぎない。

何しろそんな風で今日迄やつて来たのだが、以上を綜そうごう合して考えると、私は何事に対しても積極的でないから、考えて自分でも驚ろいた。文科に入ったのも友人のすすめだし、教師になつたのも人がそう言つて呉くれたからだし、洋行したのも、帰つて来て

大学に勤めたのも、『朝日新聞』に入ったのも、小説を書いたのも、皆そうだ。だから私という者は、一方から言えば、他ひとが造つて呉れたようなものである。

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚版 夏目漱石全集 10」筑摩書房

1972（昭和47）年1月10日第1刷発行

初出：「文章世界」

1908（明治41）年9月15日

※底本は、「談話」の項におさめた本作品の表題に、かぎ括弧を付けて示している。

入力：Nana ohbe

校正：米田進

2002年4月27日作成

2003年5月11日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

処女作追懐談

夏目漱石

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>